



平成26年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【星が丘地区】

平成27年3月31日現在

| 団体名 | 事業等の名称 | 事業の概要 | | | 交付決定年月日 | 事業予算(単位:円) | | |
|-------------------------|------------------|---|--|--|---------|------------|---------|---------|
| | | 事業の背景 | 事業の目的 | 事業の内容 | | 全体額 | 申請額 | 交付金額 |
| 1 星が丘地区DVD作成委員会 | 星が丘地区紹介DVD作成事業 | 星が丘地区については、自治会連合会を始めとして、公民館、地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会等、様々な団体が事業を実施しているが、事業への参加者が減少傾向となっている。また、事業を実施している側も役員が固定化している。その他、自治会を始め、老人会、子ども会等への加入率も低下している。 | 制作テーマを「星が丘の今を残す」とし、星が丘の年中行事、地域の団体の様々な活動、星が丘のまち、自然、施設等の変遷等を紹介することで、自分の住んでいる地域の良さを知り、併せて愛着を持ってもらうことを目的とする。また、地域で活動している人や団体を紹介し、それらの活動に興味を持ってもらい、指導者の育成を図る。 | 制作スケジュールについては、平成26年4月から平成27年1月まで、概ね4回の制作委員会を予定している。また、制作したDVDについては、自治会、民協、社協、老人会等の総会開催時、公民館まつりや公民館運営協議会の開催時、地域包括支援センターや公民館利用者への貸出等を予定している。 | 6月27日 | 730,000 | 730,000 | 730,000 |
| 2 星が丘を故郷(ふるさと)に実行委員会 | 高齢者いきがづくり事業 | 高齢者の方の居場所がない。(騙されないと思っているが、自宅以外に行く場所がないと移動販売商法に通い、結果として消費者被害にあふ事例が発生している。外出したいが外出先がない等の声が聞かれている) いろいろやってみようとは思っているが、公民館のサークルや老人会に入ってやる自信がないという声がある。 大きなことは出来ないが、人の役に立つことをしたいと思っている方々のニーズがある。どこに行けばそのような活動ができるのか等の声が地域にある。 | 体的にも気持ち的にも一歩踏み出せない人の居場所づくりを行う。 星が丘地区に高齢者等が気軽に立ち寄り、安心して他者と交流できる居場所を作ることにより、高齢者の閉じこもりを予防する。 地域に個々の力を還元するための地域の小さなお手伝いの場を設定する。 地域の高齢者が、元気に地域で暮らすことの出来る健康プログラムを実施する。また、「集まる」「体験する」「喜びを得る」を体感できるような内容を実施し、いずれ地域貢献活動ができるような団体を育成していく。 | 相模原市立星が丘デイサービスセンターのボランティア活動室での星が丘カフェ(毎週水曜日10:15~12:00)、カラオケカフェ(第2・第4金曜日10:15~12:00)を継続的に実施する。また、そのスペースで行っている絵画や写真の展示を充実させていく。 出張カフェの実施する。(月1回程度実施予定) 開放日の実施(卓球等) 星が丘カルチャーセンターの実施(週1回) ・健康プログラム(コグニサイズ、音楽レクリエーション、トーンチャイム等) ・学んで育成(参加者が希望する内容の講座等の実施) ・君こそスター(参加者が講師となり講座) トーンチャイム講習会の実施 この事業をとおり、ボランティアを生み出していく。 | 9月10日 | 245,000 | 190,000 | 190,000 |
| 3 星が丘地区ふれあいフェスティバル実行委員会 | 星が丘地区ふれあいフェスティバル | 地域で活動している団体のメンバー不足、高齢化 地域におけるコミュニティの場の必要性 | 星が丘地区の住民が一堂に会する場を設け、地域で活動する団体の活動を周知し、それぞれの団体の活動を知ってもらうきっかけをつくる。 事業を通じていろいろな団体・個人が交流を深めることにより、地域の活性化に寄与する。 | 日時 平成26年10月26日(日) 午前10時から午後3時 会場 星が丘小学校 内容 ・各種団体による事業紹介 ・各種団体の加入促進 ・各種団体による模擬店 ・子どもや家族向けのステージイベント、アトラクション等の実施 | 9月22日 | 946,000 | 900,000 | 900,000 |

| 団体名 | 事業等の名称 | 事業の概要 | | | 交付決定 年月日 | 事業予算(単位:円) | | |
|-----------------------|-----------------|--|--|--|-------------|------------|-----------|-----------|
| | | 事業の背景 | 事業の目的 | 事業の内容 | | 全体額 | 申請額 | 交付金額 |
| 4 星が丘地区子育てマップ作成委員会 | 星が丘地区子育てマップ作成事業 | <p>近年、核家族化が叫ばれる中、星が丘地区も子育て中の若いお母さん達が大勢住んでいます。お母さん達は子育てで不安にならぬよう、身近な場所の子育てに役立つ生活情報を必要としています。</p> <p>平成17年、星が丘地区民生委員児童委員協議会は国からの助成金を活用して、「子育てマップ」を作成し子育て家庭へ配布しました。(配布は平成17年～19年)</p> <p>平成24年、地区内の保育園と民生委員・児童委員との交流会が開催され、子どもさん達を預かる保育園側から再度「子育てマップ」作成の要望がありました。その要望を受け「子育てマップ作成委員会」を編成して平成24年度2,000部を作成し子育て家庭へ配布し好評を得ました。残数が少なくなり保育園側や保健師から増刷してほしいとの要望がありました。</p> | 星が丘地区の子育てに必要な身近な生活情報をマップに掲載し、子育て家庭の支援の一助とする。 | <p>掲載情報: 保育園、幼稚園、小学校、こどもセンター、公園・広場、公民館、お医者さん、子育てサロン、親子サロン、民生委員児童委員、急病などで困ったとき、子どもに関する相談窓口、健康に関する窓口など</p> <p>マップサイズ: A2</p> <p>形状: 四つ折り</p> <p>対象家庭: 0歳児～6歳児の子育て家庭(小学校入学前)</p> <p>作成部数: 2,500部</p> <p>配布方法: 保育園(3か所)、幼稚園(1か所)、子育てサロン(3か所)、親子サロン、公民館、こどもセンター、民生委員・児童委員、保健師(こんには赤ちゃん事業)</p> | 9月22日 | 255,000 | 250,000 | 250,000 |
| 5 シルバー110番普及実行委員会 | 高齢者にやさしいまちづくり事業 | <p>となり近所との関係の希薄化 高齢者世帯の増加(核家族化) 家族の役割の変化 互助の概念の変化</p> | 高齢者の相談受付窓口になる家を選定し、高齢者の悩みごとの解決の一助とし、高齢者にやさしいまちづくりを目指す。 | <p>・自治会役員や民生委員、それらの経験者の家にシルバー110番の家のプレートを掲げ、高齢者の相談受付窓口になってもらい、民生委員や高齢者支援センターにつなぎ、高齢者の悩みの解決を図る。</p> | 2月6日 | 700,000 | 700,000 | 700,000 |
| 6 星が丘地区災害時たすけあい会 | 星が丘地区災害時たすけあい事業 | <p>地震等の災害の際の避難などについて不安に思っている人が多い。</p> <p>高齢者のみ世帯や高齢者の単身世帯が増えている。</p> | <p>災害時の避難支援体制の構築についてのニーズはあるが、市が策定した災害時要援護者避難支援ガイドラインの実行については、ハードルが高く実施については難しい面があるため、星が丘地区独自の体制を構築する。</p> <p>星が丘地区の住民が安全・安心に暮らせる一助とする。</p> <p>本事業を通じて、自治会の存在をアピールしていく。</p> | <p>星が丘地区の住民に対し、事業の案内ちらしを配布し、災害時の要援護の希望者を募る。</p> <p>・自治会員・・・自治会回覧を通じて案内する。</p> <p>・非自治会員・・・自治会加入促進ちらしとともにポスティングを行う。</p> <p>要援護者1名に対して2～3名の支援者を決定し、災害時の避難確認を行う体制を構築する。</p> <p>初年度は、安否確認体制の構築を主とし、その後避難所運営協議会や自主防災組織と連動し、避難支援体制の構築を目指す。そして、通常時の見守りにもつなげていく。</p> | 2月6日 | 230,000 | 230,000 | 230,000 |
| | | | | | | 3,106,000 | 3,000,000 | 3,000,000 |